

## 第7回 藤沢駅南口駅前広場等あり方検討会議 議事要旨

■日 時：2018年（平成30年）2月27日（水）  
午後2時00分から午後4時00分まで

■場 所：藤沢市役所本庁舎 8階8-1会議室  
（神奈川県藤沢市朝日町1-1）

■出席者（敬称略、50音順）

会 長：柳沢厚

副会長：岡村敏之

委 員：相澤光春、浅井了之、石井博之、石渡悠祐、上田敬生、大矢卓嗣、  
川崎隆之、小林寿美恵、佐藤大作、嶋田勝弘、竹村裕幸、露木健勝、  
西村靖生、林正行、山田秀幸

事務局：藤沢市 都市整備部 藤沢駅周辺地区整備担当、株式会社日建設計

■議事次第

1 開 会

2 議 事

- （1）これまでの検討の振り返り等と南口駅前広場の再整備の方向性について
- （2）南口駅前広場再整備基本計画（素案）について
- （3）目指す将来像について

3 その他

■議事概要：

○第6回あり方検討会議ならびに第4回交通調整会議において出された南口駅前広場に対する意見のまとめを説明し、その後事務局からデッキの再整備の方向性、これまでの議論をまとめた基本計画（素案）を提示した。その内容を踏まえ、デッキの再整備の方向性、南口駅前広場に対する意見交換を行った。意見交換の概要は次のとおり。なお議事（3）目指す将来像については、時間の都合等により、次回会議で議論することとなった。

<デッキのあり方について>

- ▶前回の会議にて、パターンCで合意したつもりはない。
- ▶パターンAが良い。パターンCでは、我々のサイズ（のビル）ではデッキを建物内につくることは無理。デッキは公道の上につくるべき。
- ▶理想的なのはパターンBだと思っていた。いろいろな状況を考えパターンCが現実的と考えた。また、前回にそれぞれの意見を勘案して会長よりパターンCが最終的な方向性として提示されたかと思う。
- ▶（デッキを）民地に取り込んだ場合、費用負担の話がきちんと整理されなければ、関連事業者としては厳しいのではないか。パターンCを目指すとする、ビル内に通路をつくるため、行政側に相当協力してもらわなければならない。
- ▶パターンCの通路の高さ、幅をそろえるのは課題が多く、時間がかかるだろう。ま

た、工事中、歩行者動線としては不思議な形で残ることになる。

- ▶パターンCは、藤沢の美観、景観等のプラスの面だけみれば、建物内に通路をつくというのは難しいと思うが将来的にプラスの面があるのではないか。
- ▶パターンAがいかにかに困難かを事業者理解していただけるよう、個別説明を行うこと。パターンAの難しさをよく理解いただいた上で、パターンAをあきらめた場合にパターンCがあり得る。
- ▶「開放感ある地上部」と「周辺ビルへのデッキネットワークを維持する」、この2つの両立を目指して検討していくことは合意されたと理解している。その方針（検討すること）自体に異議があるのであれば、再度議論が必要。
- ▶藤沢の財産となる駅前広場とするには、開放感というところは非常に重要な要素である。

#### <地上の整備プランについて>

- ▶一般車の流入をどの程度規制できるか、一般車がどれ程流入するかという点は議論になる。またバス事業としては、名店ビル前の動線について歩行空間を通過しなければならない事が課題になると認識している。
- ▶一般車の送迎場所はできる限り駅に近い場所であるという要望があるため、利用者との調整、また交通事業者との調整が必要になり、難しいと思う。
- ▶一般車の出入について、駅前広場内に入らないとなると、どこから駅に行くのか。昇降位置が乗換デッキ部の4箇所のみというのは少ないのではないか。

#### <推進方策、スケジュールについて>

- ▶デッキ整備の支援について、税制措置、補助金、容積率に算入しない、などの支援を具体化し、明記いただきたい。
- ▶自由通路の設計は、基本設計2年間、詳細設計2年間で予定している。事業期間については、設計が終わらないと確定できない。

#### <その他>

- ▶外周デッキをビル内に取り込むかどうかは非常に重要である。近々に整備の検討に取りかかることから、設計期間に影響を与える可能性があることを理解して欲しい。
- ▶一般論として駅舎と駅前広場が一体的になっていることはあるが、駅上屋と駅前広場が一体的になっている例はあまりない。せっかくの機会であるので、南北が一体的となるように先行的対応をしていただけるとよい。
- ▶UDC（アーバンデザインセンター）が全国的に広がっており、都市ににぎわいやまちづくりとして成果を出している。藤沢でもUDCがあれば、街として一体的な議論をする場になり良いと思う。

以 上